

阿久根市第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）中間評価及び見直し

1 目標の達成状況・中間評価

別紙のとおり

2 データヘルス計画の中間評価を4つの視点で評価

(1) ストラクチャー（計画の目的・目標を達成するための仕組みや体制）

・庁内連絡会議を定期的に開催し、関係課との連携を図り、市が一体となって保健事業実施できる体制づくりを行っている。

・阿久根市国保運営協議会や国保連が設置する保健事業支援・評価委員会を活用し、委員の幅広い専門的知見を保健事業に活かし、計画を推進している。

(2) プロセス（中間評価の手順）

・KDB システムのデータや国保連が加工したデータを利用し、データヘルス計画の目標管理一覧表で毎年、経年評価を行っているので、それをもとに令和元年度の結果と初期値（平成28年度）とを比較して中間評価を行った。

・中間評価に当たり、国保連が設置する保健事業支援・評価委員会（1月13日開催）や阿久根市国保運営協議会（3月23日開催）で外部有識者の助言を得て実施した。

・第4回庁内連絡会議（2月8日開催）で、関係課（健康増進課、介護長寿課、福祉課）の担当者が集まり、中間評価及び見直しについて意見交換を行い、実施した。

・中間評価の実施には、県からの文書による支援や助言を受けながら実施した。

(3) アウトプット（計画に記載した事業の実施状況）

・疾病予防として、特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上に努めた。集団健診だけでなく、医療機関での個別健診も受診できるよう体制を整えた。住民説明会や出前講座を開催し、医療費分析した資料を用いて阿久根市の健康課題や社会保障の安定化のためにできること（健康づくり、健診受診、適正受診、適正服薬など）を市民に周知した。

・重症化予防として、糖尿病性腎症重症化予防、虚血性心疾患重症化予防、脳血管疾患重症化予防に取り組んだ。健診後の結果報告会を利用し、重症化予防対象者に、保健指導を実施し、その後、3か月、6か月のフォローを行った。糖尿病治療中の方への保健指導は、かかりつけ医と連携して実施できるよう、地域の医師会の会合に参加させていただき、市の健康課題や事業の説明を行い、協力依頼を行った。

(4) アウトカム（計画の目標や目的の達成状況）

・特定健診・特定保健指導の実施率は増加傾向にあるが40歳代50歳代の受診率が低い。

・入院医療費の伸び率が抑えられ、目標を達成した。今後も重症化予防を強化する。

・脳血管疾患や虚血性心疾患の総医療費に占める割合は改善傾向だが糖尿病有所見者は増加し、糖尿病性腎症による新規透析導入者の割合が増加傾向である。

3 今後の取組（中間評価を踏まえた見直し）

中間評価では、全体的に改善傾向ではあるがほとんどの項目がまだ目標には届いていないので、保健事業の優先順位は変えず、今後も特定健診・特定保健指導実施率向上、糖尿病重症化予防を強化し、糖尿病性腎症による新規透析導入者の割合を減少させるとともに、若い頃からの肥満（メタボ）対策に取り組む。

・若い世代に合った健診形態（個別健診・予約制健診等）を周知する。対象者の特性に合った通知文の工夫を行い、受診勧奨する。

・糖尿病治療中者の血糖コントロール不良群へ、かかりつけ医と連携した保健指導を行うとともに、糖尿病未治療者、治療中断者への健診後のアプローチを重点的に行う。

阿久根市のデータヘルス計画中間評価及び今後の方向性

| 区分 | 評価基準 |
|----|----------------|
| A | 目標達成 |
| B | 目標に達していないが改善傾向 |
| C | 変化なし |
| D | 悪化 |
| E | 評価困難 |

| 関連計画 | 健康課題 | 達成すべき目的 | 課題を解決するための目標 | 初期値 | 現状値 | 事業 | 評価 | 評価及び課題 | データヘルス計画後半の取組の方向性 | | |
|----------------------|--|---|---|----------|----------|----------------------|----------------------|--|--|------------------|---|
| | | | | H28 | R1 | | | | | | |
| 特定健診等 | 特定健診受診率が低く、重症化予防対象者を十分に抽出できていない。 | 医療費削減のために、特定健診受診率、特定保健指導の実施率の向上により、重症化予防対象者を減らす。 | 特定健診受診率60%以上 (H29:60%, H30:42%, R1:46%, R2:50%, R3:54%, R4:58%, R5:60%) | 38.9% | 47.5% | 特定健診・特定保健指導 | A | 特定健診・特定保健指導の実施率は増加傾向にあるが40歳代50歳代の受診率が低い。 | 若い世代にあった健診形態(個別健診・予約制健診等)を周知する。対象者の特性に合った通知文の工夫を行い、受診勧奨する。 | | |
| | | | 特定保健指導実施率60%以上 (H29:60%, H30:50%, R1:52%, R2:54%, R3:56%, R4:58%, R5:60%) | 49.3% | 55.1% | | A | | | | |
| | | | 特定保健指導対象者の減少率25% | 22.1% | 17.4% | | D | | | | |
| データヘルス計画 | メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合が増加傾向。 糖尿病性腎症の割合が増加し、新規透析患者が増加している。 | 1人当たり医療費の伸びを抑える。 脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病性腎症による透析の医療費の伸びを抑制する。 脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病性腎症の発症を予防するために、高血圧、脂質異常症、糖尿病、メタボリックシンドローム等の受診勧奨値以上の有所見者を減らす。 | 一人当たりの入院医療費の伸び率を同規模市町村並みの8.5%とする | 17.9% | 6.1% | 特定健診・特定保健指導 | A | 入院医療費の伸び率が抑えられ、目標を達成した。今後も重症化予防を強化する。 | 今後も糖尿病重症化予防を重点的に健診後のフォローを確実にを行う。 | | |
| | | | 必要な医療勧奨を行い入院外医療費を伸ばす5% | 3% | 7.2% | | B | | | | |
| | | | 脳血管疾患の総医療費に占める割合1%減少 | 2.58% | 2.33% | 重症化予防 | B | 脳血管疾患や虚血性心疾患の総医療費に占める割合は改善傾向だが糖尿病有所見者は増加し、糖尿病性腎症による新規透析導入者の割合が増加傾向である。特定健診受診率の向上に伴い、情報提供数も増え、生活習慣病治療中の方の受診者が増加したこと各疾患の有病者の割合やメタボリックシンドローム該当者・予備群が増加している。 | 糖尿病治療中者の血糖コントロール不良群へ、かかりつけ医と連携した保健指導を行うとともに、糖尿病未治療者、治療中断者への健診後のアプローチを重点的に行う。 若い頃からの肥満(メタボ)対策について検討する。 | | |
| | | | 虚血性心疾患の総医療費に占める割合1%減少 | 2.49% | 1.82% | | B | | | | |
| | | | 糖尿病性腎症による透析導入者の割合の減少5% | 33.3% | 80.0% | | D | | | | |
| | | | 健診受診者の高血圧の割合減少5%(160/100以上) | 5.2% | 4.9% | 特定健診・特定保健指導 | B | 特定健診受診率の向上に伴い、情報提供数も増え、生活習慣病治療中の方の受診者が増加したこと各疾患の有病者の割合やメタボリックシンドローム該当者・予備群が増加している。 | 希望調査時にかん検診に関するチラシを同封する。広報誌等を確認し受診勧奨を行う。 | | |
| | | | 健診受診者の脂質異常者の割合減少5%(LDL160以上) | 8.1% | 8.7% | | D | | | | |
| | | | 健診受診者の糖尿病有病者の割合減少5%(HbA1c6.5以上) | 9.2% | 11.2% | | D | | | | |
| | | | メタボリックシンドローム・予備群の割合減少25% | 16.5% | 12.8% | 重症化予防 | D | 特定健診・特定保健指導 | D | がん検診受診率は低下傾向である。 | 希望調査時にかん検診に関するチラシを同封する。広報誌等を確認し受診勧奨を行う。 |
| | | | 糖尿病の未治療者を治療に結び付ける割合100% | 21.3% | 87.2% | | B | | | | |
| 糖尿病の保健指導を実施した割合80%以上 | 26.9% | 100.0% | がん検診 | A | がん検診 | D | がん検診受診率は低下傾向である。 | 希望調査時にかん検診に関するチラシを同封する。広報誌等を確認し受診勧奨を行う。 | | | |
| がん検診受診率 | 6.9% | 6.1% | | D | | | | | | | |
| 胃がん検診 50%以上 | 22.1% | 19.8% | | D | | | | | | | |
| 肺がん検診 50%以上 | 13.7% | 14.0% | | B | | | | | | | |
| 大腸がん検診 50%以上 | 19.2% | 17.8% | | D | | | | | | | |
| 子宮頸がん検診 50%以上 | 29.7% | 18.6% | 後発医薬品の普及 | 後発医薬品の普及 | D | 改善傾向ではあるが目標には届いていない。 | 今後も後発医薬品の普及啓発を行う。 | | | | |
| 乳がん検診 50%以上 | 68.8% | 78.7% | | | B | | | | | | |
| 数量シェア | 後発医薬品の使用により、医療費の削減 | 後発医薬品の使用割合80%以上 | 68.8% | 78.7% | 後発医薬品の普及 | B | 改善傾向ではあるが目標には届いていない。 | 今後も後発医薬品の普及啓発を行う。 | | | |